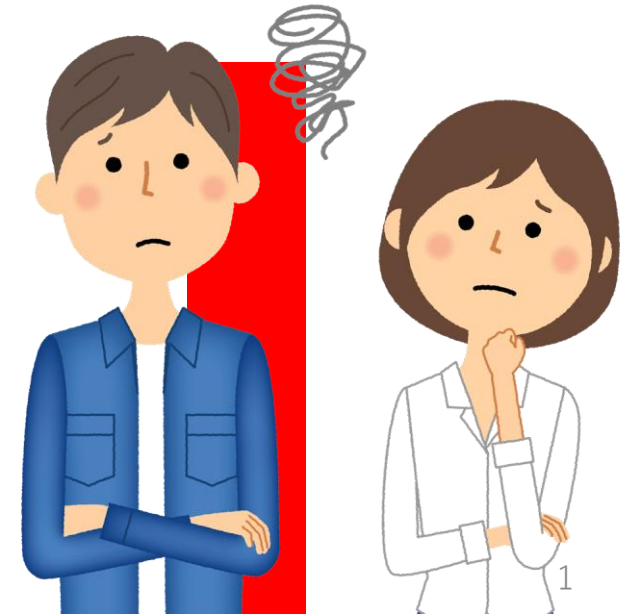


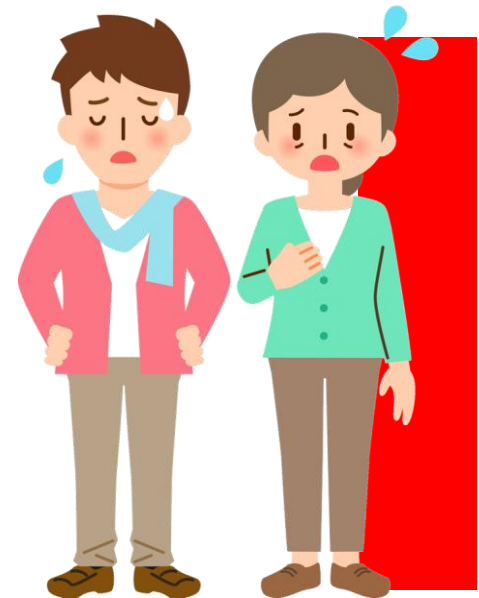
境界線を踏み越えたコミュニケーション（依存症者→家族）

- 僕は依存症なんだから、家族だったらもっと助けてよ。
- お母さん、今日彼女と遊びに行くから金ちょうだい。え？出せない？いいから早く出せよ。
- 僕がもう二度とお酒を飲まないように、僕の気持ちをケアするのが妻の責任だ。
- 私をこんなに困らせたんだから、あなたにキレるのは当然だよ。私を怒らせるあなたが悪いのよ。
- 医者なんだから依存症を治してみろよ。治せない医者が悪いよ。だからもうおれは病院にいかないから。文句あるなら、治せる医者を探してこいよ。
- おれは今日仕事で忙しいから、借金をどうしたらいいのか、弁護士によく聞いといてね。



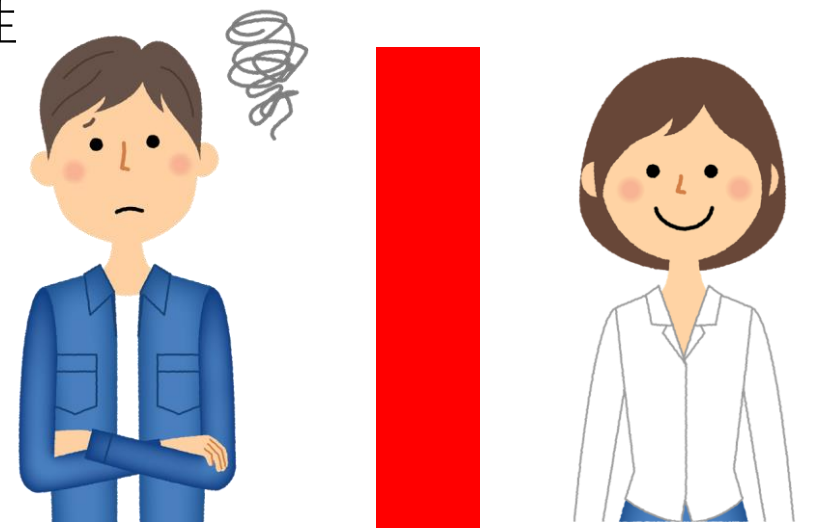
境界線を踏み越えたコミュニケーション（家族→依存症者）

- お願いだから、もう人様には迷惑をかけないでちょうだい！
- じゃあ、今回だけな。借金はお父さんが立て替えるから。これで最後だぞ。わかったか？
- 私があなを怒らせるようなことを言ったからお酒を飲んじゃったんだね。これからは気をつけるから、ごめんね。
- とりあえず病院のリストを探しておいたよ。いつが都合がいい？初診予約がとれるか電話して聞いてみるよ。
- おまえは依存症なんだから、絶対に病院に行けよ。



境界線を守るコミュニケーション（家族→依存症者）

- 私は、あなたがお酒で起こした問題の後始末はできないよ。
- あなたが治療を受けてくれたら、私はとても安心する。
- 私はこういう関係は望んでいないから、これ以上問題を起こすなら、親にあなたのことを全て話して今後のことを相談するつもりです。
- お父さんもお母さんもできるだけ協力はしたいけど、それはおまえがやるべきことをちゃんとやっていることが前提だよ。
- そんな言い方をされると、私はとても傷つく。もっと私の人間性を尊重してほしいの。



イネイブリングとは

- ・ 依存症者が、依存行動を継続することを可能にしてしまう行為。
- ・ いわゆる「尻拭い役」。周囲は困るが、本人は困ることがないため、「もうギャンブルはやめよう」と心底思うことができない。

お父さん、本当にごめんね。もう二度とやらないよ。心から誓うよ。
本当にありがとう。



これからも、何かあれば
きっと親が助けてくれる
はずだ！

※そのつもりはなくても、ついつい甘えてしまう。 4